



排せつ処理を自動で

注目の介護ロボットを視察

川 奈 神 党
団 議 県

公明党神奈川県議団（鈴木秀志団長）は、このほど、大和ハウス工業株式会社（東京都千代田区）を訪れ、寝たきりの高齢者らの排せつを自動処理するロボットを視察する。党神奈川県議団

ロボットを視察した。同社は今年1月からの株式会社エヌウィック（仙台市）が開発した排せつを自動処理するロボット「マインレット爽」を福祉機器のレンタル事業者などに販売している。排せつ物カップがセ

ットされた、おむつのような専用カバーを利用者の下半身に装着。内蔵のセンサーが排尿、排便を感知すると排せつ物を吸引し、温水洗浄から乾燥まで自動的に行う。吸引された排せつ物は接続したタンクにため、トイレに流すこと

ができる。11層の消臭フィルターで排せつ物の臭いをカット。吸引や送風の空気はロボット本体の内部で循環するため、臭い漏れはほとんどない。利用者はロボット本体をレンタルし、排せつ物タンクを備えた衛生ユニットや排せつ物

カップ、専用カバーを購入。介護保険を申請した場合、費用の負担は1割となる。同社によれば、利用者からは「おむつに比べて快適で気持ちがいい」「人に気兼ねしない」「人に気兼ねしない」「人に気兼ねしない」などの声も聞かれた。同社は「介護が楽になる」「夜、熟睡できる

ようになつた」との声が寄せられているという。視察を終えた鈴木団長は「在宅介護の現場で排せつにかかる負担の軽減を願う介護者は少なくない。普及を促すために必要な支援に取り組みたい」としている。